

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0470700436 | | |
| 法人名 | 株式会社 ジェイバック | | |
| 事業所名 | グループホームもも太郎さん(笹生) 笹棟 | | |
| 所在地 | 宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月4日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0470700436&SCD=320&PCD=04 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年1月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山沿いの自然豊かな環境で、季節感にあふれた昔ながらのゆったりとした生活を営むことができます。建物もぬくもりを感じるゆったりとした建築です。その中で利用者ひとり一人が、自分らしく、自由でのびのびと、安心して笑顔で暮らしていただきたいと思っています。隔月で運営推進会議を開催し、地域住民や行政と意見や情報交換の場を設けています。また、このような会議を通して当事業所が開催する行事に地域住民に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたり「地域と共に生きる」、地域に根ざしたホームをめざし、また実践しております。当事業所の理念である「家族の絆」を大切にできるよう夫婦、親子で暮らせる家族部屋を用意しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竹林が広がるのどかな環境で、居間に太い梁、居室に木材が使われ昔懐かしいぬくもりが感じられる。みんなで季節の行事や郷土料理を楽しみ、家族部屋では夫婦一緒に穏やかな暮らしもうかがえた。職員は一人ひとりの個性を大切に細やかな観察と支援をしており、介護度が改善された方もいる。法人内外の研修、実践者研修などに積極的に参加しており、このことが職員の活性化、日々のケアの向上につながっている。家族アンケート・アウトカム項目・職員の聞き取りからも職員が生き生きと働いていることが読み取れる。ホーム主催のもちつき・夏祭り・避難訓練に家族や地域の方の参加が多く、年々交流が密になってきている。また夏祭りを利用して家族会を開催した。運営推進会議に市の担当者が出席し活発な情報交換が行われ、理解を深めながら運営にも反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん 笹生 ユニット名 笹棟）

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の「自由に生きる」と「家族の絆」のほかに事業所としては地域密着型サービスの意義をふまえ「地域との絆」を大切にするという理念をつくり実践している。 | ユニットごとに職員が考えた理念を廊下に掲示し、毎日目視し、内部研修時にも確認する。利用者の気持ちを汲みとり支援し、家族や地域とのつながりを大切にしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、夏祭り、新年もちつき大会などの行事の案内を地域に配布している。運営推進会議を通して行事のボランティアの協力をいただいている。また、地域クリーン活動、避難訓練も協力して実施している。 | 地域の草刈り・側溝掃除、防災訓練に参加、ホームのもちつきや夏祭りの案内を各戸に配布し協力を得た。地域の防災訓練時には車椅子の操作指導を依頼された。行事に民謡やオカリナなどのボランティアの訪問もあり交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や避難訓練、事業所の行事、地域の行事に参加した際に自然に認知症の方たちと触れ合う機会ができ理解が深まっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月に開催しており、運営報告や入居状況、その他運営に関しての問題などを取り上げ話し合いを行っている。地域区長や民生委員、行政より多くのご意見をいただき情報交換を行いサービスに生かせるような体制をとっている。 | 町内会長・民生委員・家族代表・市の担当者の参加で奇数月に開催、運営状況等を報告する。避難訓練時に「ネームをつける」といった提案や行事に関する気づき等を運営に活かし、相互の情報交換により理解を深めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の参加を依頼しほぼ毎回参加していただいている。運営報告すると同時に問題点など相談しアドバイスをいただいている。 | 更新・事故報告書提出時や運営上で質問がある場合に相談し助言を得ている。運営推進会議に参加しているため、運営状況を把握してもらい協力が得られる関係である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 当法人では、教育・運営・問題委員会を設け会議を開催している。その中でも問題委員会では拘束や虐待、福祉事業所で取り上げられる問題に対し協議が行われてる。その内容は各事業所へ議事録として配布され委員によって復命されている。 | 法人内の問題委員会の議事録や外部研修の内容を職員間で共有している。日中玄関は施錠していない。外出傾向の方の症状を把握し静かに見守り、車で迎えに行く。一人で散歩する方もおり帰宅時間などに注意をしている。近隣の方にも見守りをお願いしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修への参加の促進、内部研修の開催、職員会議の実施により日頃より学習の場を設けて虐待の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 | ケアマネの内部研修、管理者会議のなかで外部講師を招き研修を実施。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明と同時に質問や疑問点を確認している。家族や本人の立場に立ち、専門用語はさけて分かりやすく説明し理解と納得を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃から職員、管理者が利用者、家族と細やかに話し合い、意見や要望が言い易い環境づくりを心がけている。また、運営推進会議への参加の促進や玄関先に意見箱を設けている。 | 訪問やケアプラン説明時等に聞いている。苦情は本社でメールでも受け付ける。「居室の床が振動する」と相談され対応した。運営推進会議や行事の参加案内をする等意見が反映できるように努めている。震災時に家族から反射ストープの協力があった。第三者委員を民生委員に委嘱している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度職員会議を設け、意見や提案の場としている。また日頃よりコミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っている。 | いつでも気軽に話してもらい、毎月の職員会議を業務についての意見提案の場としている。職員の提案から「フェイスシートに入院欄の追加」「ぐっすり眠れるように湯たんぽの活用」等を取り入れた。外部研修への参加要望があり、各研修を案内し職員の意欲に添うことができた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ブロック会議、全体会議を実施し改善に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 本人の能力が十分に発揮できるよう、個々の能力に合わせた研修参加の促進、資格取得へのアドバイス等行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会主催のグループホーム同士の交換研修への参加と受け入れを行ったり、親睦会への参加を実施しネットワーク作りとサービスの質の向上をめざす取り組みをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日常生活を観察し自分のできること、介助が必要なことを考えている。何でも話しやすい環境作りを心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約書を交わす際に家族様の思いや考え方を一緒に問題解決できるような体制に努めている。面会時や電話にて様子を話している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者、ご家族を話し合いを行い本人の状況や状態を把握しサービス提供が出来るよう心掛けている。また当事業所で対応が困難なケースに関しては本人、家族の意向を伺い他のサービスの利用も含め相談に応じている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の思いやできることを尊重し今までと変わらない生活が送れるよう努め、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう、関わりを大切にしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族や夫婦の絆を大切に、いつまでも一緒に過ごせるような体制をとっている。家族部屋(二人部屋) | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今までの生活を継続できるよう心がけている。特に在宅からの入居の場合は継続性を重視した支援を心がけている。 | 家族や親戚、兄弟の訪問、家族や友人からの手紙、携帯電話使用の支援を行っている。行きつけの美容院には家族が付き添う。本や雑誌、名取市の情報誌講読の希望などに対応している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活の中で、物事を共同して行う機会もある。利用者同士が談話されている姿もある。困っている時など手を差しのべている場面もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了した後も必要に応じて本人、家族、引継ぎをした事業者等に情報提供、相談や支援を行っていく方針である。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活歴について、家族に作成してもらう等情報収集し、本人の意向把握に努めている。その他、必要に応じ家族へ対応方法をたずねている。 | 日中、寛いでいる時や利用者から訴えてきた時に何を言いたいのかを予測する。それぞれの性格や生活歴を把握していることから、場面に応じて身体をさすり、手をつないだり、歌を歌うなど安心して過ごせるように対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居にあたり家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービス利用等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活リズムを把握し、健康状態、異常の早期発見、その人の有する力を理解し、観察に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族や医療機関と連携し状態に沿ったプラン作成、本人の思いや訴えをプランに反映し作成している。 | 利用者や家族の希望を聞きプランを作成、毎月1回モニタリングを行い必要に応じて再アセスメントを行う。3ヶ月または必要に応じてカンファレンスでプランを見直し、利用者・家族・医師・訪問看護師・職員の意見を反映させ、家族に説明・同意を得る。利用者に応じて細やかな支援を行った結果、介護度が改善された方もいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎月担当者がモニタリングを実施し必要に応じてカンファレンスしケアについて気づきや結果等の見直しを行っている。その際には、利用者から出た意見や情報を集めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 緊急受診が必要な際は、迅速に対応している。認知症の理解や把握に努めている。行事等で家族や地域住民が交流できる機会を確保し、同じ空間で過ごしていただく工夫をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 周囲は自然に囲まれており日本の昔懐かしい風景を楽しみながら散歩を楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び御家族様等の希望を大切に、以前からのかかりつけ医に受診をお願いしている。 | 利用者と家族が希望するかかりつけ医であり、基本的に家族との受診としている。状態の変化により職員も家族と一緒に付添い、医師に説明することもある。往診や訪問看護師、訪問歯科を利用している方もおり受診結果は記録する。医療機関、家族、職員との連携と共有が図られている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在、看護資格取得している従業員はいないが、個別に契約している訪問看護師と連携をとれている。常に、利用者の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応できるように家族、訪問看護、職員間で連携を図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院時の対応がスムーズに行えるように情報の共有を大切にしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 御家族様の意向を伺いながらDrと相談しながら支援に取り組んでいる。 | 看取りの経験はある。重度化した場合に家族、医師、職員で話し合い、対応について検討する。看取りを希望する場合に、事業所側で対応書類を作成し医師、家族、職員の同意を得る。ケアの統一や共有を図るために三者で話し合いを重ね対応する。 | 看取りや日常のケアに活かす医療分野の研修をより一層強化することを期待する。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当や初期対応の研修などを受けたリ、かかりつけのDrとの連携を大切にしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 半年に一度、地域の方々に手伝っていただきながら避難訓練を行っている。 | 夜間想定を含む避難訓練を年2回実施、町内会や婦人会の協力を得て、法被姿で誘導してもらい、利用者が安心して避難することができた。訓練後、火災通報手順を火災報知機の上に掲示している。震災後、停電時用アナログ電話機や災害専用倉庫を設置、反射式ストーブや自家発電機等を準備した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念に沿った対応を心掛けて、本人にとって何がベストかを考えて対応している。 | 一人ひとりの性格、生活歴、価値感にそって本人らしさをどう尊重するかを考え支援している。話し方や接し方などに配慮し、上手く対応できたケアを職員間で共有する。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | まず傾聴し、できうる限り希望に応じられるよう努力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日を穏やかに過ごせるように心掛けしたり支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 今まで生活の中でなじんだ身だしなみ、服装が継続してできるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手伝っていただける事はしていただきながら、おいしいと喜んで頂ける食事作りに努力している。 | 栄養士の助言を得て栄養バランスを考え、正月、ひな祭りなどの行事食や季節の食材に配慮して献立を作成している。出来る利用者と一緒に皮むきや後片付けを行う。穏やかな雰囲気それぞれのペースで職員も共に食事をしている。誕生日には希望を聞き料理し、満足を高めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとり食事量に注意して、水分量が少ない方には摂取量をチェックしたりして様子を見ている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後動作能力に応じた介助を実施している。また、往診で訪問した歯科衛生士などに相談アドバイス等いただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | こまめに排泄パターンや習慣を記録しリズムを作り、自立に向けた支援を行っている。しかし、失敗してしまうことが多く自立されている方は少ない。 | 排泄チェックを行いパターンを把握し、一人ひとりに添った排泄支援を行っている。さりげない声がけや他の利用者の視線がない方に誘導するなど配慮している。特に便秘には注意をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維や野菜を多く摂取できるような献立を立てている。又状態を見てセンナ茶を摂取して頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的には本人の意思を尊重し、入浴時間を決めている。しかし意思決定が困難な場合もある為、本人の健康状態を考慮し順番を決めている。 | 希望に添い毎日入浴でき、お湯は一人ひとり替えている。冬場は皮膚の乾燥に配慮する。入浴拒否の場合には、お風呂という言葉を出さず「薬を塗るから」等の声がけや職員を変え工夫している。全介助の方にはミストシャワー浴、体調に応じて清拭で対応する。バラ湯を楽しんだこともある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の生活リズムを把握し共同空間や居室にていつでも休める様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 毎回、薬が処方された際には、前回の薬と変化がないか、作用、副作用を理解し服薬している。服薬の際には、利用者の名前を呼び本人確認をしている。又飲み終わるまで観察している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者となげのこ堀、門松づくりなど四季の行事も含め出来る限り一緒に行えることを前提に支援している。その際には千恵や作法など教えていただき、尊厳と感謝の気持ちで接している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 敷地内の場合となりのユニットには安全に自由に遊びにいけるように支援する。敷地外の場合は、家族と相談協力出来る限り希望に添えるよう努めている。 | 花見や紅葉狩り、空港などへの外出支援を行っている。6月に柴田町でいちご狩りを楽しんだ。家族と一緒に外泊したり選挙や温泉等に出かける方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と相談し出来る限り本人の希望に添えるかたちを取っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族とよく相談し可能な限りできるように心がけている。(ただし、頻度によっては相手方に精神的負担をかける場合もあるため見極めていく必要があると考える) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所や各位室の扉が同じであり、混乱を招くことがある。各居室に暖簾の目印や案内板を設置し、区別がつくように工夫している。 | 居間の天窓から明かりを取り入れ、エアコンの風が直接当たらないように工夫している。だんごさしや羽子板が飾られ、新年の趣が感じられる。布で作成したカレンダー・タペストリー、家族が作成したちぎり絵などが目を引く。小上がりの和室にこたつ、廊下にソファが置かれ好きな場所で寛いでいる。両ユニットを自由に行き来する方もいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同空間に人目につかない場所は少ないが、ソファや椅子を設置し、一人になれる場所、利用者同士で気軽にお話できる場所を作るよう心掛けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具等の持ち込みは自由であり、入居の際には、入居者が使い慣れたものや、馴染みのものを使用していただくよう声をかけている。 | 収納スペースやコーナーボックスが設置され、木のぬくもりが心地よい。扉に暖簾を付け目印にしている。裁縫道具、本、座椅子などが持ち込まれた居室は個性が溢れている。部屋に洗濯物を干し自分で整理している方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物の構造上、利用者にとって不備な部分が多い。既存のものに手を加え、使いやすく安全面を考慮した環境整備に努めている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0470700436 | | |
| 法人名 | 株式会社 ジェイバック | | |
| 事業所名 | グループホームもも太郎さん(笹生) 竹棟 | | |
| 所在地 | 宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月3日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0495500100&SCD=730&PCD=04 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年1月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山沿いの自然豊かな環境で、季節感にあふれた昔ながらのゆったりとした生活を営むことができます。建物もぬくもりを感じるゆったりとした建築です。その中で利用者ひとり一人が、自分らしく、自由でのびのびと、安心して笑顔で暮らしていただきたいと思っています。隔月で運営推進会議を開催し、地域住民や行政と意見や情報交換の場を設けています。また、このような会議を通して当事業所が開催する行事に地域住民に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたり「地域と共に生きる」、地域に根ざしたホームをめざし、また実践しております。当事業所の理念である「家族の絆」を大切にできるよう夫婦、親子で暮らせる家族部屋を用意しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竹林が広がるのどかな環境で、居間に太い梁、居室に木材が使われ昔懐かしいぬくもりが感じられる。みんなで季節の行事や郷土料理を楽しむ、家族部屋では夫婦一緒に穏やかな暮らしもうかがえた。職員は一人ひとりの個性を大切に細やかな観察と支援をしており、介護度が改善された方もいる。法人内外の研修、実践者研修などに積極的に参加しており、このことが職員の活性化、日々のケアの向上につながっている。家族アンケート・アウトカム項目・職員の聞き取りからも職員が生き生きと働いていることが読み取れる。ホーム主催のもちつき・夏祭り・避難訓練に家族や地域の方の参加が多く、年々交流が密になってきている。また夏祭りを利用して家族会を開催した。運営推進会議に市の担当者が出席し活発な情報交換が行われ、理解を深めながら運営にも反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん 笹生 ユニット名 竹棟 ）

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の「自由に生きる」と「家族の絆」のほかに事業所としては地域密着型サービスの意義をふまえ「地域との絆」を大切にするという理念をつくり実践している。 | ユニットごとに職員が考えた理念を廊下に掲示し、毎日目視し、内部研修時にも確認する。利用者の気持ちを汲みとり支援し、家族や地域とのつながりを大切にしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、夏祭り、新年もちつき大会などの行事の案内を地域に配布している。運営推進会議を通して行事のボランティアの協力をいただいている。また、地域クリーン活動、避難訓練も協力して実施している。 | 地域の草刈り・側溝掃除、防災訓練に参加、ホームのもちつきや夏祭りの案内を各戸に配布し協力を得た。地域の防災訓練時には車椅子の操作指導を依頼された。行事に民謡やオカリナなどのボランティアの訪問もあり交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や避難訓練、事業所の行事、地域の行事に参加した際に自然に認知症の方たちと触れ合う機会ができて理解が深まっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月に開催しており、運営報告や入居状況、その他運営に関しての問題などを取り上げ話し合いを行っている。地域区長や民生委員、行政より多くのご意見をいただき情報交換を行いサービスに生かせるような体制をとっている。 | 町内会長・民生委員・家族代表・市の担当者の参加で奇数月に開催、運営状況等を報告する。避難訓練時に「ネームをつける」といった提案や行事に関する気づき等を運営に活かし、相互の情報交換により理解を深めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の参加を依頼しほぼ毎回参加していただいている。運営報告すると同時に問題点など相談しアドバイスをいただいている。 | 更新・事故報告書提出時や運営上で質問がある場合に相談し助言を得ている。運営推進会議に参加しているため、運営状況を把握してもらい協力が得られる関係である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 当法人では、教育・運営・問題委員会を設け会議を開催している。その中でも問題委員会では拘束や虐待、福祉事業所で取り上げられる問題に対し協議が行われてる。その内容は各事業所へ議事録として配布され委員によって復命されている。 | 法人内の問題委員会の議事録や外部研修の内容を職員間で共有している。日中玄関は施錠していない。外出傾向の方の症状を把握し静かに見守り、車で迎えに行く。一人で散歩する方もおり帰宅時間などに注意をしている。近隣の方にも見守りをお願いしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修への参加の促進、内部研修の開催、職員会議の実施により日頃より学習の場を設けて虐待の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ケアマネの内部研修、管理者会議のなかで外部講師を招き研修を実施。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明と同時に質問や疑問点を確認している。家族や本人の立場に立ち、専門用語はさけて分かりやすく説明し理解と納得を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃から職員、管理者が利用者、家族と細やかに話し合い、意見や要望が言い易い環境づくりを心がけている。また、運営推進会議への参加の促進や玄関先に意見箱を設けている。 | 訪問やケアプラン説明時等に聞いている。苦情は本社でメールでも受け付ける。「居室の床が振動する」と相談され対応した。運営推進会議や行事の参加案内をする等意見が反映できるように努めている。震災時に家族から反射スリーブの協力があった。第三者委員を民生委員に委嘱している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度職員会議を設け、意見や提案の場としている。また日頃よりコミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っている。 | いつでも気軽に話してもらい、毎月の職員会議を業務についての意見提案の場としている。職員の提案から「フェイスシートに入院欄の追加」「ぐっすり眠れるように湯たんぽの活用」等を取り入れた。外部研修への参加要望があり、各研修を案内し職員の意欲に添うことができた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ブロック会議、全体会議の中で議題として取り上げ改善に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 本人の能力が十分に発揮できるよう、個々の能力に合わせた研修参加の促進、資格取得へのアドバイス等行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会主催のグループホーム同士の交換研修への参加と受け入れを行ったり、親睦会への参加を実施しネットワーク作りとサービスの質の向上をめざす取り組みをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の訴えや日常生活を観察し、自分で出来ること、介助が必要なことを見極めている。また、本人が困っていることを話しやすい環境作りや、人間関係作り心にかけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居契約書を交わす際に、家族の思いや考えを吸い上げ家族、事業所が一緒になって問題解決ができるような体制作りに努めている。また、入居後面会時や電話等にて、家族に対し本人の様子をお話している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者、ご家族を話し合いを行い本人の状況や状態を把握しサービス提供が出来るよう心掛けている。また当事業所で対応が困難なケースに関しては本人、家族の意向を伺い他のサービスの利用も含め相談に応じている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の思いや、出来ることを尊重し今までと変わりのない生活を送っていただけれるよう努めている。常日頃から利用者との関わりを持ち、家庭的な雰囲気でも過ごせるように努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 当事業所には、家族部屋(2人部屋)を設置している。夫婦や家族の絆を大切に、いつまでも一緒に過ごせるような体制をとっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今までの生活を継続できるよう心がけている。特に在宅からの入居の場合は継続性を重視した支援を心がけている。 | 家族や親戚、兄弟の訪問、家族や友人からの手紙、携帯電話使用の支援を行っている。行きつけの美容院には家族が付き添う。本や雑誌、名取市の情報誌講読の希望などに対応している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 生活の中で、共同して物事を行う機会が多く常に利用者同士で談話されている。また、介助が必要な方に対して利用者自ら手を差し伸べている場面も多く見受けられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了した後も必要に応じて本人、家族、引継ぎをした事業者等に情報提供、相談や支援を行っていく方針である。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の生活歴について、入居時に家族に作成してもらった他、情報収集も行っている。その他、必要な場面には随時家族へ対応方法を尋ねるなど、本人の意向把握に努めている。意志表出が困難な入居者に対しては興味を示すものを職員が把握できるよう心掛けている。 | 日中、寛いでいる時や利用者から訴えてきた時に何を言いたいのかを予測する。それぞれの性格や生活歴を把握していることから、場面に応じて身体をさすり、手をつないだり、歌を歌うなど安心して過ごせるように対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居にあたり、家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービス利用の背景等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活リズムを把握し、健康状態、異常の早期発見に努めている。また、その人の有する力を理解し、負担軽減や精神状況を観察している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族や医療機関との連携を密にし、状態に沿ったプランを作成している。また、本人の思いや訴えをプランに反映し作成している。 | 利用者や家族の希望を聞きプランを作成、毎月1回モニタリングを行い必要に応じて再アセスメントを行う。3ヶ月または必要に応じてカンファレンスでプランを見直し、利用者・家族・医師・訪問看護師・職員の意見を反映させ、家族に説明・同意を得る。利用者に応じて細やかな支援を行った結果、介護度が改善された方もいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎月担当者がモニタリングを実施し必要に応じてカンファレンスしケアについて気づきや結果等の見直しを行っている。その際には、利用者から出た意見や情報を集めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 緊急に受診を要する際には、迅速に医療機関と連絡を取り受診対応している。また、行事では利用者、家族、地域住民が交流できる機会を確保し、認知症の理解や把握に努めていると共に、同じ空間で過ごしていただくような工夫をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設周辺には、竹林や川、山があり散歩時には自然の景色を楽しめる。利用者の体力を考慮し、距離や落差、散歩コースを選択している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望するかかりつけ医へ受診できるよう配慮され、医療機関とも良好な関係を築いている。通院介助は基本的に家族対応。通院時、家族に状況を伝え必要な場合は書類を作成している。家族が対応できない時は、職員による通院介助も行われ、結果については家族へ電話で伝えられている。 | 利用者と家族が希望するかかりつけ医であり、基本的に家族との受診としている。状態の変化により職員も家族と一緒に付添い、医師に説明することもある。往診や訪問看護師、訪問歯科を利用している方もおり受診結果は記録する。医療機関、家族、職員との連携と共有が図られている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在、看護資格取得している従業員はいないが、個別に契約している訪問看護師と連携をとれている。常に、利用者の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応できるよう家族、訪問看護、職員間で連携を図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院される前や、入院中に看護師や生活相談員と連絡を取り、入居者の健康状態の把握に努めている。また、入居相談等の情報交換も行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化については、段階的に家族と話し合いがなされ方針が統一されている。入居者が重度化した場合は、家族、医師、職員で話し合い、対応について検討している。また、ホームで看取りの書類を作成し、対応できる事柄について説明がなされている。 | 看取りの経験はある。重度化した場合に家族、医師、職員で話し合い、対応について検討する。看取りを希望する場合に、事業所側で対応書類を作成し医師、家族、職員の同意を得る。ケアの統一や共有を図るために三者で話し合いを重ね対応する。 | 看取りや日常のケアに活かす医療分野の研修をより一層強化することを期待する。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 基礎的な応急手当や初期対応の訓練は定期的に行われていない。ただ、往診時に医師より急変対応等について随時話し合いを行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回避難訓練を実施している。地域住民にも協力を要請し、避難誘導や避難場所の確保等の協力体制は確保できている。 | 夜間想定を含む避難訓練を年2回実施、町内会や婦人会の協力を得て、法被姿で誘導してもらい、利用者が安心して避難することができた。訓練後、火災通報手順を火災報知機の上に掲示している。震災後、停電時用アナログ電話機や災害専用倉庫を設置、反射式ストローブや自家発電機等を準備した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格や生活歴を尊重し、一人ひとりに合った話し方や接し方、対応を心掛けている。 | 一人ひとりの性格、生活歴、価値感にそって本人らしさをどう尊重するかを考え支援している。話し方や接し方などに配慮し、上手く対応できたケアを職員間で共有する。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | いつでも思いや希望を表せれるように、常日頃から入居者の訴えに耳を傾けている。また、自己決定が出来るような環境作りや、訴えを吸い上げれるような話し方に注意し取り組んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活リズムを把握し、無理のないようゆったりとした雰囲気でもらえるよう心がけている。希望や訴えを受け入れ、満足できるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 基本的には、自分で衣類を決めて着用して頂いている。但し、自ら衣類を選択することが困難な場合には、数種類の衣類を見ていただき、選んでもらうよう配慮している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの出来る範囲を把握し、食事の準備や片付けを入居者、職員一緒に行っている。 | 栄養士の助言を得て栄養バランスを考え、正月、ひな祭りなどの行事食や季節の食材に配慮して献立を作成している。出来る利用者と一緒に皮むきや後片付けを行う。穏やかな雰囲気それぞれのペースで職員も共に食事をしている。誕生日には希望を聞き料理し、満足を高めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の状態に合わせ食事を提供し、こまめな水分補給を行っている。また、電気湯沸かし器などの複雑な操作が必要とする器具ではなく、簡単に操作でき利用者が扱えるものを提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。義歯を使用している方には、外してもらい洗っている。また、歯ブラシや、コップなど本人の使いやすいものを選んでる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを記録し自立に向けた支援を行っているが、認知症の進行や年齢により思うように行かず自立できない場合もある。 | 排泄チェックを行いパターンを把握し、一人ひとりに添った排泄支援を行っている。さりげない声かけや他の利用者の視線がない方に誘導するなど配慮している。特に便秘には注意をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維・野菜・乳製品を多く摂取できるように心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的には本人の意思を尊重している。しかし意思決定が困難な場合は健康状態を考えた支援をしている。 | 希望に添い毎日入浴でき、お湯は一人ひとり替えている。冬場は皮膚の乾燥に配慮する。入浴拒否の場合には、お風呂という言葉を出さず「薬を塗るから」等の声かけや職員を変え工夫している。全介助の方にはミストシャワー浴、体調に応じて清拭で対応する。バラ湯を楽しんだこともある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の生活リズムを把握し、共用空間や居室にいつでも休めるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬を理解し服薬の際は利用者の名前を呼び飲み終わるまで見届けるようにしている。また飲ませた職員がチェックシートに印を押すなどして誤薬をなくす工夫をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の意思を尊重し出来る限り自由に好きなことをしていただけるように支援している。また行事を企画して利用者、家族、職員と一緒に楽しむ場を設けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望に沿う支援は人員や天候等の理由も含め日常的に出来ているとはいえないが、家族に本人の希望を伝え外出することが多い。気候的に良いシーズンは希望に添えることも多い。 | 花見や紅葉狩り、空港などへの外出支援を行っている。6月に柴田町でいちご狩りを楽しんだ。家族と一緒に外泊したり選挙や温泉等に出かける方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 所持されている方は限られているが、外出の際など使っていただける体制をとっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族とよく相談し可能な限りできるように心がけている。現在は携帯電話を2名の利用者が所持している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所や事務所、居室等の扉が同じであり、混乱を招くことがある。暖簾や案内板を設置し、区別がつくように工夫している。 | 居間の天窓から明かりを取り入れ、エアコンの風が直接当たらないように工夫している。だんごさしや羽子板が飾られ、新年の趣が感じられる。布で作成したカレンダータペストリー、家族が作成したちぎり絵などが目を引く。小上がりの和室にこたつ、廊下にソファが置かれ好きな場所で寛いでいる。両ユニットを自由に行き来する方もいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の中で独りになれる場所は少ないが、ソファやいすを置き自由に過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具等の持ち込みは自由であり、入居の際には利用者が使い慣れたものや馴染みのものを使用していただくよう声をかけている。 | 収納スペースやコーナーボックスが設置され、木のぬくもりが心地よい。扉に暖簾を付け目印にしている。裁縫道具、本、座椅子などが持ち込まれた居室は個性が溢れている。部屋に洗濯物を干し自分で整理している方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物の構造上、利用者にとって不備な部分が多い。既存のものに手を加え、使いやすく安全面を考慮した環境整備に努めている。 | | |